

あす台北へ出発

台湾へ渡ることになり倉田さんから激励される救助犬「アルフレイン」112日、名古屋市天白区の倉田さん方で



救助犬の育成 台湾で手本に

昨年九月の台湾大地震を契機に設立された「中華民国救難捜索犬協会」(張仁宗理事長、本部・台北)の救助犬第一号として、名古屋市天白区天白町平針、犬訓練士倉田千尋さん(三)が飼っているラブラドルレトリバーの三歳の雄「アルフレイン」が、台湾へ渡ることになった。台北への出発を四日に控え、倉田さんは「きつと力を発揮してくれる」と新たな活躍に期待している。

災害救助犬は鋭いきょう覚を生かし、地震などの際にがれきなどに埋まった被災者の捜索に活躍する。日本では百二十一匹が認定を受けているが、台湾には一匹もない。昨年の大地震の際、日本から全国災害救助犬協会連合会(本部・富山市)が救助犬を派遣して人命救助活動を行い、現地

優秀さで『ぜひ』

この時の活動が縁で、台湾側から同連合会へ要請があり、今年六月に五人が台湾へ渡って訓練士養成について指導。台湾からは、十月に富山市で開かれた全国災害救助犬認定審査会に張理事長ら五人が見学を訪れた。その際、張理事長がアルフレインの能力を目を見張り、救助犬育成のモデルとして「ぜひ台湾に来てほしい」と要望した。

倉田さんは、申し出を承諾。日本の連合会と台湾の協会との間で順調に話が進み、福島県のシェパード一匹とともに台湾へ渡ることが決まった。二匹は現地でも災害時に現場に向かうが、ふだんは救助犬のPRなどに起用されるという。

アルフレインはもともと、富山市の救助犬の子どもで、同市の訓練所にいた倉田さんが生後半年のころから世話を続けている。一歳で災害救助犬の最高ランク第三種認定犬に合格。倉田さんが二年前の春、名古屋市天白区の実家へ戻ったときに、アルフレインも一緒に名古屋に来た。

倉田さんは四日、アルフレインとともに成田空港をたち、現地で五日間過ごし、その後、アルフレインを残して帰国する予定。

で注目された。